

川崎市麻生区のクツワムシ

雑倉 正人*

A record of *Mecopoda niponensis* (de Hann) from Asao-ku, Kawasaki City

Masato HINAKURA*

クツワムシ *Mecopoda niponensis* (de Hann)は、その特徴ある鳴き声で古来から知られており、雑木林や河川草地で見出される直翅類である。しかし本種は、近年顕著に減少しており、関東地方においては、神奈川・千葉・埼玉・茨城・群馬の各県版レッドデータブックに掲載されている。川崎市内では1998年に麻生区片平において確認されているが(福田, 1999)、分布の現状はよくわかっていない。最近出た神奈川県昆虫誌(浜口・中原, 2004)でも、本種の川崎の分布は空白になっていた。

筆者は、2004年9月20日19時頃、麻生区黒川において本種の生息を確認(1♂撮影ならびに採集・4♂声を確認)したので、記録しておきたい。確認した場所は東京都との境界に近い谷戸であり、12月には丘を一つ隔てて新駅が誕生し、宅地化の波が迫っているが、付近には、ヤマサナエが生息する湿地や、ミヤマセセリが生息する雑木林がある。発見当日は、林縁のクズなどが茂るマント群落で鳴いていたが、声が既に弱々しく、発生の盛期を過ぎていたものと推察された。福田, 1999は麻生区片平において褐色型が見られることを報じているが、今回確認された個体は緑色型であった。筆者が歩いたのはこの晩の短時間だけなので、周囲の広範囲の状況は把握していない。

内田, 2003は、埼玉県における調査結果から、本種の生息場所の特徴として、近くに夜間照明が無い(あるいは有っても樹木などで遮られている)ことを指摘しており、都市化による光源の増加・生息場所の分断・雑木林の放棄による植生の変化などが複合的に作用し、本種が減少に至ったと推察している。また、本種はもっぱら夜間に発音することから、あえて夜間調査を行うか、地元に住んでいる方々の情報を集めることなしには、十分な分布像を把握することは困難である。今後、8~9月における観察により新たな産地が追加され、本種の保全のためのありかたが明らかになり、川崎市内の直翅類相が一層解明されることを期待したい。

文献

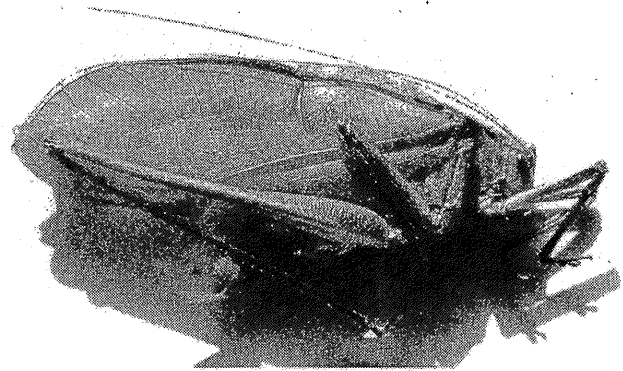
福田晴男, 1999. 川崎市麻生区のクツワムシ. 月刊むし(335), 43-44.

浜口哲一・中原直子, 2004. バッタ目. 神奈川県昆虫誌 I, 神奈川県昆虫談話会, 小田原, 139-188.

内田正吉, 2003. クツワムシはなぜ減ったのか? 寄せ蛾記(108), 5-6.



麻生区黒川で撮影されたクツワムシ



同一個体の標本

* 特定非営利活動法人かわさき自然調査団

